

定例教育委員会会議録

(令和7年6月6日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】（要点筆記）

日 時 令和7年6月6日（金）
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 603会議室
署名委員 小平教育委員、藤森教育委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

1. 県教育委員会及び市教育委員会相互の

人事等に関する了解事項について【資料No. 1】（非公開）（教育総務課）

2. 岡谷市史編さん委員会の委員の承認について【資料No. 2】（非公開）（生涯学習課）

3. おかやのまちじゅう学園化構想の展望について【資料No. 3】（教育総務課）

4. 令和6年度施設等利用状況について【資料No. 4】（各課）

○ 報 告

1. 熊等（イノシシ、カモシカ）出没時における

学校の対応マニュアルについて【資料No. 5】（教育総務課）

2. 令和7年6月定例会議案について（各課）

○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、
教育総務課主幹指導主事 村松 晋、生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、
指導主事（ウェルビーイング実践校）井出 誠一、
子ども教育相談センター長 林 秀昭、教育総務課 教育企画主幹 西山 塁、
学校教育主幹 新村 尚志、子ども教育相談センター主幹 長谷川 智康、
美術考古館 文化財主幹 秋山 仁志、美術考古館主幹 牛澤孝太郎、
教育総務課事務員 渡辺 凱

<会議録>

○開 会

宮坂教育長

6月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、小平教育委員、藤森教育委員にお願いします。

○教育長報告

宮坂教育長

(1) 子どもたちの姿から

① ふれあいたいむ春季推進旬間

5月20日から30日にかけて実施された「ふれあいたいむ」では、子どもたちの爽やかな挨拶が印象的であり、特に中学生の反応が良好であった。期間中、学校周辺にはPTA役員が交通安全のぼり旗を手に立ち、地域全体で子どもたちを見守る様子が見られた。子どもの安全に対する地域の高い意識がうかがえ、あらためて、それに関わるすべての方々への感謝が述べられた。

② 運動会の様子

5月31日と6月1日には、7校で運動会が開催された。天候の判断に悩まされる場面もあったが、いずれの学校も無事に実施することができ、準備や運営に尽力した関係者への感謝の意が述べられた。競技に励む子どもたちの元気な姿や、綱引き・騎馬戦などの種目を楽しむ保護者や地域住民の姿を通して、地域と一体となった運動会の意義が改めて感じられる機会となった。

③ 学校訪問

6月3日、長地小学校から学校訪問が開始。

④ 満蒙開拓平和記念館の研修

本日より、長地小学校による満蒙開拓平和記念館での研修が開始された。本研修は、阿智村教育委員会の協力のもと実施されており、雨天時には阿智中学校体育館にて昼食を取る予定となっている。黒柳教育長より歓迎の言葉が述べられた。

⑤ 子どもたちの姿

6月26日から28日まで、工業メッセの開催が予定されている。

6月4日には東部中学校において未来塾の開講式が行われた。今年度は新たな講師陣を迎え、意欲的に活動に取り組む子どもたちの姿が印象的であった。

(2) 生涯学習課から報告

5月16日から18日まで「信濃刀画の会 55周年記念展・林先生白寿祝賀展」が開催され、約400名が来場。会は今年で活動終了となるが、版画カレンダーや展示作品などが市へ寄贈される予定、教育委員会として今後活用していく方針。

宮坂教育長 美術考古館では「増沢莊一郎展」が6月8日で終了、6月12日からは「日達れんげ展～切り絵のふるさと～」が開催予定。多くの来場を呼びかけている。

(3) スポーツ振興課からの報告

5月25日に令和7年度の各区対抗スポーツ大会の総合開会式が開催され、多くの選手・関係者が参加し盛況に行われた。大会はスポーツ人口の拡大と体力づくりを目的に毎年実施され、今年度は9月までに全11競技が予定されている。開会式後には卓球やバドミントンなど5競技がスタートし、交流と親睦を深める大会となることを期待している。

○議 題

1. 県教育委員会及び市教育委員会相互の人事等に関する了解事項について（非公開）

2. 岡谷市史編さん委員会の委員の承認について（非公開）

3. おかやのまちじゅう学園化構想の展望について

＜おかやのまちじゅう学園化構想の展望について、事務局より No. 3 に基づき説明＞

小平教育委員 内容には、今後への期待が高まるものがある。小さい頃に学んだことを学び直すことは、理解をより深めることにつながる。「スパイラル」というのは、「行きつ、戻りつ」を繰り返しながら学びを深めていくという理解でよいのか。また、系統性というのは教科ごとの学びでよいのか伺いたい。

事務局（井出） 学年が上がるごとに学びは積み重ねられていくが、その積み重ねは、教員一人ひとりの教材研究に委ねられている現状がある。こうした状況を踏まえ、各教科における学年間のつながりを市内の教員間で共有することで、児童・生徒の発達段階に応じた学びを着実に進めていくことを目指している。

小平教育委員 「おかや絹結プログラム」については、具体的にどのような形で実践されるのでしょうか。

事務局（井出） 現在の絹結プログラムは、園児が小学校へ進学する際に、保育園での生活状況やねらいを小学校へ申し送る仕組みとして構築されている。今後は、保育園での生活状況を進学先の学校と随時ウェブ上で共有できる仕組みを整備することで、情報共有が一層広がるものと考えている。

小平教育委員 「まちじゅうの学園化構想」においては、誰もが学びを共有できることが重要であり、不登校支援を含め、すべての子どもたちの学びを共有できたらと思う。自発的な学びを支える取り組みには大きな可能性を感じている。取り組みを進めるにあたり、非効率的な部分も生じることが想定されるが、期待を込めて取り組んでいただきたい。

- 藤森教育委員 信濃町の視察においては、生徒の自主性を尊重され、主体的に学びを進める生徒や先生の姿に感銘を受けた。
- 今後、岡谷の子どもたちが「どのような学びをしたいか」を話し合い、学校間の交流を通じて子どもたちの意見を取り入れながら、先生方と一緒に創り上げていくことができれば、とても素晴らしいと感じるため、よろしくお願いしたい。
- 事務局（井出） 先生方には、まず未来の学校の姿を展望するところからはじめ、その先には、子どもたちのウェルビーイングを大切にし、我々大人が思い描くことと子どもたちの考えが必ずしも一致しないことも踏まえつつ、子どもたちの意見や声を取り入れる視点を大切にしていきたいと考えている。
- 轟教育委員 信濃町の視察の中で、地域の方々と対話を重ねるなかで、14年が経過しても大きな不満が生じていないことから、地域を巻き込むことの重要性が印象的でした。はじめて気づくことも多いと考えられるため、早めに意見を吸い上げ、行動に移すことが今後必要になってくると思う。こうした視点もぜひ取り入れていただきたいと思う。
- 太田教育長職務代理者 「学校」と「学園」の意味について自問自答していたところ、今回の説明を通じて明確になりつつある。「おかやのまちじゅう学園化」は、異年齢の交流や様々なツールを活用し、学校の枠を超えた学びの中から生まれてくるものが「学園」だと捉えてもいいのかなと考えている。
- 先生方の交流の様子からも、今後は先生同士の日常的なやりとりが「学園」へとつながっていくものと感じられた。子どもや先生同士がつながることで生まれてくる何かが、時間の経過とともにより大きく、深いものへなっていく可能性を感じている。これは従来の学校観を超える新しい挑戦であると考えており、その基となる川岸学園構想の今後の展開にも大いに期待している。
- 林教育委員 まず先生方への理解を深め、その後、地域やPTA、子どもたちへの理解を進めていくことも重要と思うが、今後のスケジュールについてはどのように予定されているのか。
- 事務局（井出） 具体的な内容については今後詰めていく予定であるが、直近では今月末に川岸小学校と岡谷西部中学校が合同で実施する「健全育成大会」において、「おかやのまちじゅう学園化構想」を説明し、保護者や地域、教職員も交えたディスカッションを行う予定である。来月には出前講座の開催も予定している。今年度は準備期間と位置付け、教職員の理解を深めるとともに、保護者や地域の方々にも理解を促し、子どもたちへの展開を図っていききたいと考えている。
- 林教育委員 5つの柱が確実に整備され、関係者全員が共有できる形で取り組みが進展していくことを期待している。

事務局（井出） トコトンや「おかやのまちじゅう学園化構想」を基盤とし、5つの柱を中心に取り組みを進めていきたいと考えている。進める中で、この柱に固執することなく、先生方や子どもたちの自由な発想から新たなアイデアが生まれることも重視したい。柔軟で豊かな発想力により、5つの柱が6つ、7つへとさらに幅広く展開できればと考えている。

宮坂教育長 トコトンの取り組みについては、井出先生を中心に、学校と教育委員会が一体となって、子ども一人ひとりの学びを支える基盤づくりを進めていきたいと考えている。今後ご意見を伺いながら共に考え、取り組んでいきますので、引き続きよろしくお願いしたい。

4. 令和6年度施設等利用状況について

＜令和6年度施設等利用状況について、事務局より No. 4 に基づき説明＞

轟教育委員 「子ども教育相談センター」における相談内容と報告内容の相関については、一見関連があるように感じられたが、実際にはそうではないことが分かった。特に「いじめ」に関する相談では、実際の相談者数が1人であるのに対し、報告件数は85件に上っている。この点について、詳しい説明をお願いしたい。

事務局（林） いじめに関する相談件数は、子ども教育相談センターへの直接の件数は少ない。学校においてはいじめ対策が着実に進んでいると感じている。小さなトラブルもいじめとして丁寧に対応しているため、報告件数が増加している状況である。相談内容は主に学校や保護者からのものが多く、今後は子ども自身が直接相談できる体制の整備が必要であると考えている。

轟教育委員 学校訪問を通じて、学校側のいじめ対応がしっかりしているとの印象を受け、説明で理解が深まった。また、4ページの「心の教室相談室」の延べ来室者数が今年大きく増加している点について、これは相談しやすい環境が整い、子どもたちが相談室を利用しやすくなってきたと捉えてよいのか、伺います。

事務局（長谷川） 「心の教室相談室」の来室者数の増加について、明確なものはないが、相談室の先生との関係性が築かれ、子どもたちの悩みや状況に応じて相談内容が変わるため、その影響が数字に表れていると考えている。

令和5年度の来室件数は712件で、令和4年度の929件より減少しているが、定期的に通っていた子どもが卒業したことなど個々の状況変化も影響しているため、一概に比較は難しい状況である。

事務局（林） 例年、心の教室の来室数は大きく変動しており、特定の年に多くの子どもが利用することが数字に大きく影響していると考えている。

藤森教育委員 12ページの旧林家住宅の令和5年度の有料入場者数が、特に団体で前年より倍増している。市外、県外から来ているかどうか、どのあたりからの

来訪者かについて、把握しているか伺います。

事務局（三澤） 把握はできていない。

藤森教育委員 旧林家住宅は、岡谷の歴史や文化を象徴する重要な文化財であり、市外から多くの方に来場いただき、その魅力や岡谷市の良さを知ってもらうことが重要であると考えている。維持管理は教育委員会の重要な役割であり、シルクファクトや観光協会と連携して、PR や広報活動を実施しているのか、教えてほしい。

事務局（三澤） 蚕糸博物館、観光協会と連携し、県内の取り組みとして関連施設を巡るカード企画などを実施している。来館者には館内で解説や案内を行い、各施設間のストーリー性を伝えている。シルクフェアなどにおいては、市内の近代化産業遺産の展示やPR も行い、連携して広報活動を進めている。

藤森教育委員 美術考古館や文化財的な住宅、公民館、図書館など、一部の施設では利用者が減少している状況にある中で、外部から人を呼び込み、利用促進を図ることが重要である。コロナ禍や個別には改修工事の影響により増減が見られるものの、利用者アンケートなどを通してニーズを把握し、高齢化に伴う利用減少と並行して、若い世代のニーズを掘り起こす取り組みが必要であると考えている。

事務局（秋山） 施設間の連携の一環として、共通券を発行し、複数の館を割安で見学できるようにしている。また、各館において随時アンケートを実施し、来館者の意見やニーズの把握に努めている。来館者には芳名帳への記載を促しているが、個人情報取り扱いが慎重に求められる時代であることから、記載を依頼しづらい状況もある。旧林家住宅の来館者については、県外からの訪問が多いと感じている。

宮坂教育長 共通入館券については、毎年岡谷市に新しく来た先生方に岡谷を知ってもらうために配布している。

太田教育長職務代理者 カルチャーセンターで、利用団体の解散による利用の減少はあるものの、学習室と催事場の利用が令和6年度で大幅に増加している。この増加理由について、分かることがあれば教えてほしい。

事務局（三澤） 行動制限の解除により、学習室や催事場など、多くの人が集まれる場所の利用が増加したこと、また通常の展示や催しが再開されたことが、利用者数増加の主な要因であると考えている。

太田教育長職務代理者 学習室はオープンな空間であり、特に高校生が自習などで利用するイメージがあるが、そのような利用が可能な施設であるのか伺いたい。

事務局（三澤） エスカレーター正面に位置し、ガラス張りで主に勉強をする場所として利用されている部屋になる。

太田教育長職務代理者 図書館で令和6年度から始まった「旅する本箱」について、新聞でも紹介されたが、反応や状況について教えてほしい。

- 宮坂教育長 報道では、冊数が選定されているため、低学年の子どもたちが選書しやすいとの声もあったところである。
- 轟教育委員 マレットゴルフの利用者が大幅に減少していることについては、仕事を通じて高齢者の方々と関わる機会が多く、昨年の猛暑による熱中症や足の不調に関する話も聞いており、これらが利用減少に影響を及ぼしているものと認識している。高齢者の利用が多いことを踏まえると、熱中症対策や、移動手段を含めた足の確保など、利用者を支えるための対策や支援が必要であると感じている。
- 事務局（三澤） 参考にさせていただく。
- 藤森教育委員 スポーツ振興課が所管する施設の多くは指定管理による運営が行われており、設備利用料の確保や施設の維持が比較的安定している印象を受けている。指定管理者の導入により、運営の効率化や利用促進が図られ、その成果が利用実績等のデータにも反映されているのではないかと考えている。
- 事務局（味澤） 定期的に情報交換を行い、他市町村の事例も参考にしながら、利用者が快適に楽しめる環境の整備に工夫を凝らして取り組んでいる。また、利用者や職員から寄せられる意見を共有し、清掃や改善対応を丁寧に行うことで、来館者が気持ちよく過ごせるよう努めている。
- 事務局（白上） 指定管理者の自主事業が大きく、受付でアイスクリームや焼きいもの販売など利用者に好評なサービスを提供し、独自のスポーツ教室も開催している。また、地域で届きにくいニーズを補い、VC 長野トライデントとの協力によるバレーボール教室などの事業も展開しており、これらが入場者増加に貢献していると感じている。
- 宮坂教育長 利用者数も前年度と比較すると増加傾向にある施設が多くなってきている。今後も創意工夫しながら魅力ある事業に取り組み、利用者の確保に努めていく。

○ 報 告

1. 熊等（イノシシ、カモシカ）出没時における学校の対応マニュアルについて

<熊等（イノシシ、カモシカ）出没時における学校の対応マニュアルについて、事務局より No. 5 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

2. 令和7年6月定例会議案について

＜令和7年6月定例会議案について、事務局より別紙に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

特になし。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

・その他

＜定例教育委員会の会議録について事務局より説明＞

・次回定例教育委員会日程

令和7年7月7日（月）9時30分から605会議室を予定

○議 題（非公開）

1. 県教育委員会及び市教育委員会相互の人事等に関する了解事項について

＜事務局より No. 1 に基づき説明、承認される＞

2. 岡谷市史編さん委員会の委員の承認について

＜事務局より No. 2 に基づき説明、承認される＞

11時30分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 7 年 7 月 7 日

教 育 長

宮取 亨

署 名 委 員

藤森 一俊

署 名 委 員

小平 陽子

調 製 職 員

白上 淳